



つばめ農園おひさま便り

46

安溪貴子・安溪遊地

沖縄の野菜

ムクゲやフヨウの花が咲きました。夜は窓を閉めて寝ないと肌寒く感じる山口市阿東の徳佐高原ですが、晴れば日中の陽射しはまだまだ厳しい日々です。

今年の一月末に石垣島で買求めた沖縄野菜の種子を蒔いてみました。赤毛ウリとも呼ばれるモーウイと食用へちまのナーベラーです。九月に入ってからモーウイが次々にとれてきました。琉球王国の宮廷料理にも使われたというキュウリの仲間で、ずんぐりした実の重さは一キロ弱です。生でもしゃきしゃきとしておいしく食べられますが、煮崩れせず使いやすい瓜です。ナーベラーも、柔らかくとろみがあつて優しいお味です。以前から育てている、ゴーヤーとともに食卓を彩ってくれます。

阿東徳佐の名産に「徳佐瓜」がありますが、それよりは少し細長い形の、目をはなしているとすぐ二キロにも育つ白瓜の種子をご近所からいただいたて育てています。こちらは、浅漬けや煮物、炒めもの、と料理法を工夫しつつ、粕漬けにもします。食べきれないので、台風被害で野菜がない西表島の友人にモーウイと白瓜を送ったら、とても喜ばれました。

有機農業の仲間との交流

九月はじめに、わたしたちが会員の山口市環境保全型農業推進研究会（やまぐち環保研^{かんぼ}）は、の視察研修として、瀬戸内海側の宇部市と山陽小野田市の会員を訪れました。一日で四か所も訪ねるといふ欲張った計画でしたが、そのなかから、二か所をご紹介します。

有機JASの規格を取得した全国的にも珍しい「奇跡のぶどう」栽培農家の「#亀の甲農園」。一九五二年生まれのオーナー、三隅忠典さんは、四六年も前から、無農薬・無化学肥料のブドウの栽培に取り組んでおられます。現在は消費者もくわわってたいへん活発な「#有機ネット山口西部」の代表である三隅さんが、有機農業を志したきっかけのお話は衝撃的でした。

彼のお父さんは田んぼに農薬を散布するという作業を受託していました。ホリ、ドール（パラチオン、日本では一九七一年まで使用）などの、哺乳類や鳥類にまで強烈な毒性をもつ有機リン剤や水銀製剤など使われた時代です。適切なマスクもなく、農薬の被曝を防ぐ手段がありませんでした。ある日のこと、田んぼからもどつたお父さんは倒れて、一週間後に亡くなってしまいます。三隅さんがまだ



六歳のときのことでした。その経験から、将来は農業や化学肥料を使わずに農作物を栽培したいと決心。高級でも食べられないブドウへのあこがれから、お年玉をためてその苗を買ったのが始まりでした。試行錯誤しながら、無農薬でぶどうを育てる方法の研究を始めました。軽量鉄骨の見上げるように背の高いハウスの壁面を網で覆って通風をよくし、七株のピオーネの足元はなんと深さ一メートル半まですべて、いい匂いのするふかふかの堆肥でできています。地下水位を調節す



ピオーネの三つじ
「亀のこもれび」の農家「つじ」
「つじ」の食事
「つじ」の食事

「つじ」の食事
「つじ」の食事

る工夫や、選定の方法など、学ぶところがたくさんありそうです。決して安くはありませんが、苦味成分を含まないために、全国の化学物質過敏症（CS）の方々にたいへん喜ばれているとのことでした。

もうひとつは、二〇〇九年四月にオープンした、宇部市にある農業振興と地域の活性化拠点「#楠こもれびの郷」です。施設は、源泉かけ流しの「くすくすの湯」、農産物直売所「楠四季菜市」、農家レストラン「つじ」、新規就農希望者の研修交流施設「万農塾」、カフェ古民家倉、田舎のパン屋さんなどが入った複合施設です。田舎なのにたいへん賑わっている「つじ」で、地域のお母さんたち手作りのお料理を堪能したあと、「有機ネット山口西部」の前代表であり、万農塾塾長の森部美喜さんのお話をうかがいました。

道の駅や温泉なら全国各地にもあるのですが、二〇〇四年一月に宇部市に編入される前の楠町の時代から数々の困難を克服するアイデアと努力の積み重ねで、今日のユニークな拠点ができたことがわかりました。まず、合併の前に、町民有志による「楠の農業と温泉を考える会」を立ち上げ、二〇〇五年に宇部市の予算で温泉を掘りました。二〇〇七年の暮れにこの会を母体に「楠むらづくり株式

会社」ができ、翌年から「楠こもれびの郷」の指定管理者になって現在に至っています。もっとも独創的なのは、五ヘクタールのモデル農園をもち、定着率の高い新規就農の研修ができていくという点です。一部の地権者だけに土地売却の収入があるという形にしないために、基盤整備事業と組み合わせ、めいめいの土地から一定の割合で提供してもらった土地を集めた形で施設を建設。その売却益によって受益者負担ゼロという基盤整備事業ができたのです。さらに、利用権を山口県農林開発公社を通じて担い手等（農業生産法人「アグリ楠」、楠むらづくり株式会社）へ集積することを了解してもらうために、十数軒の地権者を回って説得したことなど、優に一冊の本になるお話がありそうでした。

（つづく）
（あんけいたかこ・あんけいゆうじ）





 a@ankei.jp
 http://ankei.jp

QRコードにスマホをかざすと、サイトが見られます。文中の#はネット検索してください。